

都市再生に係る有識者ボード 防災WG
議事概要

日時：平成 26 年 5 月 26 日（月） 10：00～12：00

場所：永田町合同庁舎 7 階特別会議室

議事次第：

1. 前回防災WG（第9回）の審議内容の確認（報告）
2. 東日本大震災後の防災対策の取組状況及び予算支援の拡充状況（報告）
3. 都市再生安全確保計画等の作成状況について（報告）
4. 都市再生安全確保計画制度の推進について（審議）
5. 今後の主な予定（報告）

議事要旨：

<東日本大震災後の防災対策の取組状況及び予算支援の拡充状況（報告）>

○防災関係の法令が多数整備されているので、各計画、各制度、予算など、それぞれの関係を整理しないと現場が混乱してしまう。

○防災関連の法律がたくさんあると、発災直後の混乱時のマネジメントができないのではないかと。関連法律をうまく使い分ける仕組みを考える必要がある。

○地域防災計画との関係や整合性においても、都市再生安全確保計画の付加価値を明確にしていくべき。各地域で、都市再生安全確保計画を作らなければ十分効果が発揮できないメリットや特徴を改めて打ち出していくことが必要ではないか。

○都市再生特別措置法に基づく都市再生安全確保計画は、原点に戻れば、災害の備えを付加価値にして都市再生を図っていくところにある。この概念は、他の法律には含まれていないので、そこをもっと強く後押しする必要がある。

○新しい法律をどのように重ね合わせるのが望ましいのか。国内でも国際的にも都市間競争があり、それに打ち勝っていくために、この安全確保計画が日本では重要である。それぞれの地域に多様なやり方があり、新しい法律ができた状況を、新しい仕組みとして構成することが大事ではないか。

○新しい法律の運用はこれからであり事例集や Q&A を作成する良いタイミング。体系的な整理をして、都市再生安全確保計画の特徴・メリットを打ち出していくことが必要である。

<都市再生安全確保計画制度の推進について（審議）>

○今回のツールは誰が使うものなのか。事業者の説明するときの一つのツールだと、何がメリットかというのが非常に分かりづらい。計画をつくった人たちに、何を「ウリ」につくっているのかということを知ることが必要。

○今回出てきた 7 つの計画自体について評価をきちんとしていただきたい。その主旨は、初めての計画であることから、作成主体に苦労した話を実際に聞いて、制度をより利用しやすく改善を図っていく必要があるため。

○事例集には、地域の個性として、まず、民間関係の団体がどのくらい参加し、どのくらいまで民間が実施すべき内容が決まっているのかを示さないと、これから作成する地域の参考とならないのではないか。

○Q&A を作って新しい法律制度を広く理解してもらうことは大変重要であるが、Q&A であれば、読み手が最も知りたいと思っていることを含まないと実務としてのリアリティーに欠ける。

○計画に載せたソフト対策などが本当に機能するのか検証する仕組みが必要であるので、目立つように記載すべき。

○事例集や Q&A は、新規開拓として横に広げることを目的とするよりも、むしろ、もっと深めるための後押しをすることのほうが重要だと認識している。作成された 7 計画は、最終的には外に出しても差し障りのない部分だけになっているが、それ以外の経験を関係者はされているはずであり、そういう経験の共有をする場をつくるべき。

○再開発と絡んで計画を作成する場合は良いが、開発がない地域では、既存の有効資源をどう使って地域の安全確保を担保していくのかが、弱いところだと思う。平時から使えることをうまく示す必要がある。民間事業者の方々は災害用だけに物を置くということはすごく負担が大きい。

- 都市再生安全確保計画において、平時からのエリアマネジメントとの連携が重要と手引きに書いてあるが、現実として、そうした仕組みになっているかは疑問であるので、事例集や Q&A に記載しておく必要があるのではないか。
- 事例というのは、全体像が分からないとパーツを切り離して見せても伝わらない。地区の概要と計画のポイントを 1 枚に整理したペーパーを作成するなどして、自治体側が読んでも、民間の方が読んでも読み手の理解が深まる工夫が必要。
- 今後の運用で、地域間の連携みたいなシンポジウムだとか、イベントだとか、意見交換してみたいと思うのであれば、連絡協議会みたいな形で計画を策定した自治体間の連携というやり方もあるのではないかと。
- Q&A には、2つのレベルがあり、1つは、新規に取り組んでいる方々へのイントロ編。もう一つは、計画を策定した先行地区が、今後さらにレベルアップをしていく上でどんなことをやればいいのかを説明するもの、その 2 種類がある。
- 実際に携わった担当者のコメントをつけてこそ、事例集が生きるのか、何を目指したのか、何に苦労したのか、行政側からのコメントと民間事業者のコメントを是非つけてもらいたい。
- 都市再生安全確保計画は、持続的に議論・活動する中で、深まって大きくすべきものであるため、短期の見直しの習慣をつけておく方が良いのではないかと。
- 都市再生安全確保計画の内容は、自治体の事務局体制、つまり、都市部局と防災部局の関与具合で左右される印象がある。どういうバランスで事務局体制を組むと他の防災諸計画との関係において、都市再生安全確保計画の個性が発揮されやすいかについても留意する必要がある。

<今後の主な予定>

- 意見交換会については、建前の意見しか出ない場になりがちなので、少し柔らかい雰囲気で見えがでやすい環境づくりに配慮すること。

- 意見交換会と新規の取組み者への説明会を分けてしまうと、意見交換会で出てくる先人たちの苦勞話を新規に取り組もうとしている人たちと共有できなくなる恐れがあるので、場の設定をうまくやってもらいたい。

- 意見交換会などの事務局体制も、今後は、ある程度コーディネート側に民間の立場の方に入ってもらったほうが、継続的に取組みができるので良いのではないか。

- 今日の WG での意見を踏まえて取りまとめた段階で、事務局から各先生に説明をしてもらうことにしたい。取りまとめにあたって必要であれば、座長として協力する。

以上